



75名の巣立ちの日に

3月11日（金）に75名の卒業生が、さまざまな思い出を胸に本校を巣立っていきました。感染症拡大防止のため、ご来賓の皆様にはお越しいただけませんでした。保護者の皆様と教職員、在校生代表の岡崎さんが見守る中で、温かい式を行うことができました。

担任の先生の呼名に元気よく返事をする一人一人の姿を壇上から見てみると、3年間の何気ない会話や学校行事などを思い出し、目頭が熱くなりました。入学当初から元気がよく、何度も学年集会で注意もされてきましたが、個性豊かなたくましい学年でした。2年生の後半からの成長には目を見張るものがあり、最後の体育会では1、2年生の協力のおかげもあり、「生徒が主役の体育会」を成功に導いてくれました。その時の気持ちを、卒業生代表 尾方さんは、「別れのことば」の中で、次のように表現していました。



卒業生代表「別れのことば」より



（前略）

三年生になってもコロナ禍が収まる気配はなく、心待ちにしていた行事は二転三転しました。体育会は秋になり、準備をしてきたことの半分くらいしか実行できませんでしたが、少ない練習時間、動画を見ながら一生懸命に覚えたダンス、クラス一丸となって披露したパフォーマンスは忘れることができません。勝ち負けなど関係ない、皆で作上げた素晴らしい体育会でした。この日の校歌は、腹の底から声を出して歌い切りました。きっと在校生の皆さんにも校歌が歌える喜びが伝わったと思います。

コロナ禍で、腹立たしい思いもたくさん味わった75人の卒業生でしたが、常に「みんなで楽しもう」という気持ちを押し出し、くやしきもエネルギーに変えて生活してきました。そんな彼らを見守り、支えてくださったご家族、保育園から幼稚園・小学校・中学校の先生方、地域の方々、そして75人の仲間たちへの感謝の気持ちとともに巣立っていきました。

（中略）

明日からは自分の夢に向かって別々の道へと進んでいきますが、ずっとずっと郷内の仲間です。自分の進む道を信じ、まわりの人たちへの感謝を忘れず、これからもお互いに支え合い、高め合いながらがんばりましょう。

また、在校生代表の岡崎さんの「送ることば」にも、学校行事や生徒会活動等について触れている部分がありました。

在校生代表「送ることば」より



（前略）

一番に思い出すのは、体育会です。全校の練習の時、積極的に声を出したり、予行の時も競技ひとつひとつに全力で取り組んでいたりと、私たちのお手本となり、リードしてくださいました。生き生きと笑顔いっぱい踊るダンスはとても素敵でした。他にもリレーや学年種目では、クラス一丸となり、真剣に全力で走る姿は格好よく素敵でした。
（裏面に続く）

二番目に思い出すのは、合唱コンクールです。練習を積み重ね、授業の時かすかに聞こえる先輩方が奏でる歌がとてもきれいで、本番、先輩方の歌を聞くのが楽しみでした。

三番目に思い出すのは、生徒会活動や委員会活動です。(中略) 生徒会執行部の先輩方は、学校をひっぱり盛り上げようと積極的にアイデアを出してくれました。がんばっておられる姿が、とても格好よくていつも輝いていました。

先輩方と一番かかわりが深かったのは、部活動です。体験入部で緊張して戸惑っていた時に、基礎の大事なところをゆっくりと丁寧に教えてくださったり、難しいと思ったところも、できるまで見守ってくださったり、声をかけて応援してくださったり、コツなどひとつひとつやり方を教えてくださり、とても感謝しています。あいさつの仕方や練習用具の扱い方や準備や片付けもきびきびと動いて、全力で練習をして、部員で協力し、いつも後輩を気にかけてくれる先輩方は、私たち後輩の憧れの存在でした。先輩と一緒に過ごしてきた日々は、かけがえのない思い出です。(後略)

1, 2年生の皆さん、ありがとう！



学校行事で一番大切な卒業式が、今年度も立派にできたのは、1、2年生たちが陰で支えてくれたおかげです。前日の掃除や式場準備、教室の飾りつけなど、先輩たちに感謝の気持ちをもって取り組んでいたことに、皆さんの成長を感じ、本当にうれしかったです。ありがとう。



皆さんは、4月からひとつ学年が大きくなり、2年生は最上級生に、1年生は中堅学年になります。先輩方にもしてもらってうれしかったことや、役に立ったことを後輩にも伝えていき、郷内中学校がめざす「生徒が主役の学校」をいろいろな形で実現していくことを期待しています。一人一人の笑顔が輝き、地域の方々に感謝の気持ちを態度で示すことのできる郷内中学校の生徒を、これからもずっと応援しています。

保護者の皆様、地域の皆様へ感謝、感謝・・・



令和3年度の本校教育活動に多大なご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。特に今年度は、全国的に「感染症が子どもたちの学校行事に大きな影響を及ぼし、子どもたちの楽しみを奪っていった」という言葉をあちらこちらで耳にしました。もちろん本校でも同じでしたが、郷内の子どもたちは、そのような状況をじっと見つめながら、「その中でも自分たちができることは何だろう」と考え、工夫する力が随分育ったと感じています。私たち教職員は、そのような子どもたちのたくましさや優しさに助けられながら教育活動を進めることができました。

また、保護者の皆様には、学校評価や学年行事変更のアンケートなどで、貴重なご意見を聴かせていただきました。地域の方々には、地域での子どもたちの良い行いをたくさん伝えていただきました。本校にとりまして、力が出るありがたいお言葉ばかりでした。感謝しかありません。また、「郷中だより」を読んでくださり、温かい感想をくださり、本当にありがとうございました。

郷内地域学校園運営協議会で検討してまいりました「郷内学」が、いよいよ来年度から開始します。詳しいことは、次号の郷中だよりでお知らせいたします。